

(19)日本国特許庁 (JP)

(12)公開実用新案公報 (U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平4-100247

(43)公開日 平成4年(1992)9月22日

(31)Int CL'

F 16 H 3/70
9,76

登録記号 序内登録番号

9030-3 J
9130-3 J

P 1

技術表示箇所

審査請求 未請求 領求項の数 2(全 2 頁)

(21)出願番号	実開平4-12385
(22)出願日	平成3年(1991)9月7日

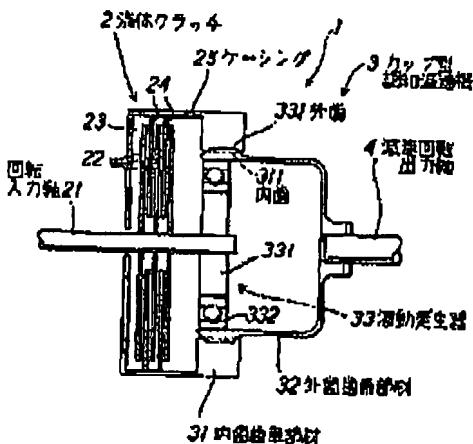
(71)出願人	380040061 株式会社ハーモニク・ドライブ・システムズ 北水部品川区大井1丁目49番10号
(72)考案者	伊藤 善雄 長野県南安曇郡安曇町大字免科4492-29
(74)代理人	弁理士 横沢 忠郎

(54)【寄合の名称】トルク可変型無段变速機

(57)【要約】

【目的】減速比を無段階に変更可能であると共に、減速比に応じて伝達トルクを増減させることができたトルク可変型無段变速機を実現すること。

【構成】減速機構1は、流体クラッチ2と、筒車式のカップ型調節減速機3から構成されている。流体クラッチ2の回転出力装置であるケーシング25は、減速機3の側の筒車内側部材31と一体回転するよう結合されている。また、回転入力軸21は、減速機3の減速発生器33と一体回転するよう結合されている。流体クラッチ2のすべり面、操作するとクラッチ接觸度を調整することによって、減速機3の減速比を1/Rとする。見掛け上の減速比を1:1から1:1/Rまで無段階に変更できる。また、これに伴って、伝達トルクの増減も変更される。



(2)

実開平4-109247

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 回転入力要素と回転出力要素との間のすべり量が可変となっているクラッチ機構と、この無段变速機における前記回転入力要素および回転出力要素のうちの一方に対して、回転入力要素および减速回転出力要素のうちの一方が連結されている変速比固定部の差速構とを有することを特徴とするトルク可変型無段变速機。

【請求項2】 請求項1において、前記クラッチ機構は液体クラッチであり、前記変速比固定部の差速器は調和变速器であり、この調和变速器は、剛性の環状部材と、可傾性の環状部材と、この可傾性の環状部材を半径方向に調めて前記剛性の環状部材に対して複数の箇所で傾斜させ、これらの傾斜位置を円周方向に移動させることによって、これら環状部材の間に相対回転を発生させる駆動発生部から構成され、前記液体クラッチの出力要素が、前記調和变速器の剛性の環状部材、可傾性の環状部材

等および駆動発生部のうちの一つに対して一体回転するよう連結されていることを特徴とするトルク可変型無段变速機。

【図面の簡単な説明】

【図1】本考案の一実施例に係る減速機器を示す概略構成である。

【符号の説明】

- 1 . . . 減速機器
- 2 . . . 液体クラッチ
- 21 . . . 回転入力軸
- 25 . . . ケーシング
- 3 . . . カップ型調和变速機
- 31 . . . 内齒車部材
- 32 . . . 外齒車部材
- 33 . . . 駆動発生部
- 4 . . . 減速回転出力軸

【図1】

